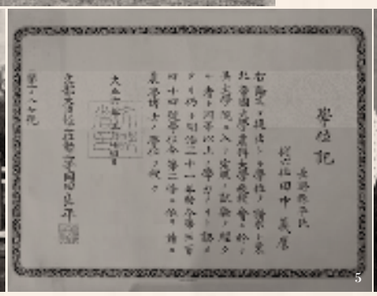
温故知新 北海道大学

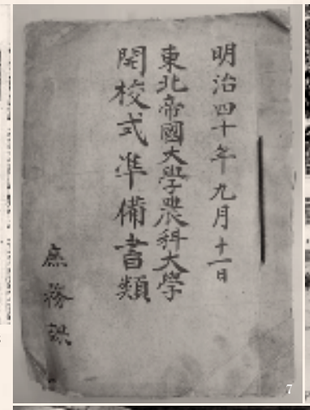
挑戦の140年

SCENE-13

1896-1907

「札幌農学校の大学昇格」





1. 林学教室、現在の古河講堂（1910年ころ、大学文書館蔵）
2. 農科大学1期生と教授（1908年、大学文書館蔵）
3. 農科大学校庭、林学教室の玄関前から南西方向を撮影（1917年、大学文書館蔵）
4. 東北帝国大学農科大学長佐藤昌介（1910年ころ、大学文書館蔵）
5. 農科大学大学院を修了した田中義麿の農学博士学位記（1917年、大学文書館蔵）
6. 農科大学正門（1910年ころ、大学文書館蔵）
7. 東北帝国大学農科大学開学式の準備文書（1907年、大学文書館蔵）
8. 『北海タイムス』1902年1月11日掲載社説「北海道大学設立の必要を論す」
9. 園芸学講座教授星野勇三と学生たち（1909年、大学文書館蔵）
10. 農業経済学の演習風景（1910年ころ、大学文書館蔵）

高等教育機関の系譜

一八七〇年代、明治政府の中央省庁は近代国家を担う専門知識を有する人材を養成するため、独自に高等教育機関を設立した。その多くは、一八九〇年までに帝国大学（後の東京帝国大学）が分科大学（現在の学部に相当）として再編していった。法科・文科・理科大学や医科大学は、徳川幕府の洋学機関を源流とする文部省管轄の学校であり、法科大学には司法省設置の学校も合流した。工科大学は工部省設置の学校、農科大学は内務省から農商務省が引き継いだ学校を前身とした。中央省庁の学校の内、帝国大学が包摂しなかったのは、陸・海軍省の学校と、開拓使が設置した札幌農学校である。

札幌農学校は開校にあたり、所定の課程を修了した者に「大学及第ノ免状」（Bachelor of Science）を与えることを定め、本科卒業者に学士号を授与した。札幌農学校は、制度上は大学として位置付かなかったが、帝国大学の分科大学と同等の水準を備えていたと言える。

大学昇格への機運

一八九七年、日本で二校目の大学として京都帝国大学が開学した。その前後から政府・文部省ではさらなる大学増設の動きがあり、札幌農学校関係者の間でも大学昇格への期待が高まった。一八九六年の農学校卒業式では、北海道庁長官原保太郎が、札幌農学校を基礎とした大学設置への期待を述べた。一八九八年に札幌農学校学芸会が発刊した学校紹介誌『札幌農学校』には「札幌帝国大学設立の必要を論す」と題した項目を掲載した。札幌農学校長佐藤昌介は機会があるごとに学校拡充・大学昇格を文部省や政府要人に働き掛けた。北海道教育会、札幌区会、北海道会や地域の有志も、札幌農学校を母体とする大学の設立を訴え、新聞・雑誌も大学設置の必要を論じた。

日露戦争や財政問題などから、こうした機運が下火になることもあった。加えて、当時、大学は複数の分科大学により組織する定めであったため、農学専門の札幌農学校が単独で大学に昇格するのは困難な情勢でもあった。

一九〇六年、文部省は大学増設の予算案を立てた。内容は、①札幌農学校を農科大学（札幌）に昇格させ、理科大学（仙台）を新設して農・理の二つ分科大学による東北帝国大学を仙台に、②京都帝国大学福岡医科大学を独立させ、工科大学を新設して医・工の二分科大学による九州帝国大学を福岡に、それぞれ設立するという案である。しかし、ここでも財源が問題となり計画は頓挫しかけた。

古河家の寄附

その財源問題に古河家が援助を申し出る。古河家は足尾銅山を経営する古河鉱業会社などを傘下に置く財閥を形成し、足尾鉱毒事件では社会的な批判を浴びていた。後に総理大臣となる原敬内務大臣が古河家顧問となり、大学増設のため百万円を寄附する事業を画策した。原敬と佐藤昌介は、少年時代、盛岡藩の藩校で机を並べた同郷・同窓の士でもあった。

東北帝国大学と九州帝国大学の設立が決まり、古河家は寄附事業として、九州帝国大学工科大学の四教室、東北帝国大学理科大学の一教室、そして東北帝国大学農科大学の「予科及実科教室」・「農芸化学教室」・「林学教室」・「畜産学教室」の四教室を建設した。この九つの建物の内、東北帝国大学農科大学の「林学教室」のみが現存している。現在の「古河講堂」である。

「古河講堂」は、札幌農学校の大学昇格と東北大学・九州大学の開設という歴史的事実を物語る建物である。さらに大学の歴史と足尾鉱毒事件や佐藤昌介・原敬の交友関係との関連を想起させる、歴史の生き証人とも言える。

セス学理ト実務ノ密接ナル関係益々深キヲ加ヘ本道ニ於ケル本大学ノ位蓋学校ノ生命ハ永遠無窮ニ渉ルヘキモノニシテ歳月ト共ニ益々改良発

将来実業ノ開進ニ随ヒ農工林業水産ヲ論地ハ更ニ重要ナルヘキヲ知ルニ足レリ／達スルヲ要ス（佐藤昌介学長の開学式式辞）

東北帝国大学農科大学

一九〇七年九月、東北帝国大学農科大学が開学した。農科大学には、農学・農芸化学・農芸物理学・植物学・動物学昆虫学養蚕学・園芸学・畜産学・農政学殖民学に関する十二の講座を設置した。その後、二十七講座へと拡充する。一九一三年には大学院も設置した。

一八七六年の札幌農学校開校式に二十四名の入学生の一人として立ち合った佐藤昌介は、農科大学開学式における学長の式辞で、小規模学校からスタートしたハーヴァード大学・イェール大学を引き合いに「本大学ハ僅ニ三十余年ノ経歴ヲ以テ漸ク学海ニ出ントス」と述べた。その表現には、札幌農学校が大学と同等の水準であり続けたことの矜持と、大学昇格に至る艱難への感慨が満ちている。

Hokkaido University HISTORY 1896-1907

1896年	7月	卒業式式辞で北海道庁長官が大学昇格への期待を述べる
1897年	6月	京都帝国大学設置
1898年	6月	学芸会編『札幌農学校』に「札幌帝国大学設立の必要を論す」掲載
1899年	5月	佐藤昌介校長が農学校の大学昇格を文部省に申し入れ
	7月	北海道教育会が「札幌帝国大学設立建議書」を文部大臣に提出
	7月	札幌の有志者協議会が「北海道帝国大学設立建議」を文部大臣に提出
1900年	2月	札幌区長が北海道帝国大学設立に関する意見を北海道庁長官・内務大臣に上申
	2月	札幌の有志が「北海道帝国大学設立期成同盟会」を結成
1902年	1月	『北海タイムス』が「北海道大学設立の必要を論す」掲載
1905年	11月	『北海タイムス』が「北海大学設立意見」掲載
	11月	北海道会が「北海道帝国大学設立ニ関スル建議」を可決
1906年	5月	北海道庁長官が大学設置を含む北海道事業計画案を発表
	6月	札幌区会が大学設置に関する建議を可決
	8月	北海道協会が「北海道農科大学設置に付意見書」を文部大臣に提出
	12月	古河家が大学増設経費百万円寄附を申し出
1907年	6月	東北帝国大学の設置を公布
	9月	1日東北帝国大学農科大学設置、11日開学式挙行

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。